

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2295800128		
法人名	株式会社 だんらん		
事業所名	スローライフ汐見台		
所在地	静岡県牧之原市汐見台14-1		
自己評価作成日	令和7年7月15日	評価結果市町村受理日	令和7年9月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;UjyosyoCd=2295800128-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;UjyosyoCd=2295800128-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和7年7月30日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

住宅街に立地し、静かな環境です。隣接する小堤山公園は季節の花々が咲き住民が散歩に訪れ、地域の避難場所でもあり安心して暮らせる環境です。認知症になっても思い出のある地域で、仲間と一緒に笑顔で暮らせるよう支援していきます。経験の豊富な職員が多く、一人の一人の思いや願いを受け入れ、出来る限り利用者様に沿った支援を行います。ご家族の思いを受け入れ、細やかなご対応を心がけています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

訪問時に津波警報が発令され、会社の判断では避難になる可能性があるということで、利用者者に靴を履いてもらうという対応を始める様子を奇しくも目にしています。一人ずつ、「避難するかもしれないから靴を履きましょうね」と声をかけていましたが、バタバタしている雰囲気は受けず、いつもの外出時の支度に近い具合なのだという印象が残りました。椅子を入り口付近から一列に並べながら、そこに座ってもらい靴を履かせ、利用者はそのまま座って待機していましたが、職員は様々な対応する中でも、利用者の前を通る時は、何かしらのアプローチをして気持ちを和ませていて、日頃から配慮ある関わりがあることが覗えました

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に掲示、新人研修・ミーティング時に確認している。	書道のたしなみのある職員が書いたという理念が掲示されていて、毎日目にしており、空でも言えます。また、利用者の事を協議する折にも、理念を意識しながら検討できています	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩や買い物などの外出時に挨拶を交わしている。	隣の公園で実施される地域の防災訓練には、職員と利用者それぞれ複数名ずつ毎年参加していますが、コロナ禍で地域との交流が疎遠になり、日常では挨拶を交わす程度に留まっています	ボランティアの受入れを拡大することで、地域の顔なじみが増えるよう、期待します
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	休止しているオレンジカフェの再開を予定している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて出席者と運営状況を共有し、得られた意見や要望をサービス向上に取り入れている。	運営推進会議では事故報告をしています が、「ヒヤリハットの件数はあった方が良いのでは」との意見が挙がり、ヒヤリハットの様子を簡素化し、記入しやすくして数の増幅を促しています	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	長寿介護課の担当者に相談を行い、基準順守とケアの向上に活かしている。	牧之原市長寿介護課の担当者には運営推進会議への出席のみならず、様々な事柄について助言を仰ぐことができ、例えば研修計画の確認もしてもらっています	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会・研修等を通じて職員の理解を深め、身体拘束を防止している。	「身体的拘束等適正化のための指針」に基づく構成員を以って「身体拘束等適正化検討委員会」の開催が四半期毎におこなわれ、その議事録は全職員で供覧のうえ、取組が共有されています	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会・研修等を通じて職員の理解を深め、虐待を防止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者に被成年後見人が2名おり、制度の概要や後見人とのやり取りを職員間で情報共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、入居後も家族が気軽に疑問を伝えられるような体制をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員が家族と接した際には、要望を遠慮なく伝えていただけるよう声掛けを行っている。	サービス担当者会議への出席について家族の協力が得られたことで、言い難いことも聞きとる機会に恵まれ、意思の疎通が十分に図れるようになったと管理者は感じています	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員からの意見を聞き取り、不定期のミーティングも行いサービスに反映させている。	勤務体制が変わり、そのことで勤務が難しいとして退職となった職員もいますが、大きく入れ替わったことで風通しがよく、明るい職員集団へと変貌したことは誰の目から見ても明らかです	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各状況を把握し職員が向上心を持って働ける環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は外部研修受講を奨励し、サービスの質向上に資する内部研修を企画実行している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は牧之原市サービス事業者連絡会の会長であり、勉強会等地域のネットワークづくりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の本人・家族との面談や利用中のサービス事業所からの情報収集を十分にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の家族との面談で家族の就労状況・本人との関係性・入居後の不安などを十分に聞き取り、なんでも相談できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談・アセスメントを十分にいき、ニーズに適した支援を他事業所の利用の可能性も含めた相談体制をとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の上で出来ることは自発的に行い、困難なことは職員が寄り添いながら行っていただくことを意識して支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や自宅への外泊に家族の協力をいただいている。ケアの内容など職員と家族と一緒に考える機会を持っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類や友人が気軽に面会できる雰囲気を作っている。	家族のサービス担当者会議への参加を図ったことや、介護計画書の家族意見欄が手書き(直筆)であることに、事業所の関係継続への姿勢と尽力を受け止めます	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が入居者同士の関係性やその日の各々の気分を察知しながら、共同作業やコミュニケーションの機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談を受け、できる支援は行うことを家族に伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の心身の状況より変化していく意向を把握し、意向に沿った生活が出来るように支援している。	職員から先に挨拶があり、職員が利用者と共に過ごしている雰囲気を感じられ、大きな飛躍を遂げています。意向把握が高まったかどうかまでは確認できませんでしたが、様子からは和合が伝わります	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談だけでなく入居後も各職員が生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックや食事量の記録・申し送りを行い、それぞれの職員が心身状態の変化を敏感に察知し情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者・計画作成担当者が本人家族の想いをくみとり、職員が日々の様子を計画作成担当者に申し送り計画作成に役立てている。	管理者が介護支援専門員、計画作成担当者を兼務して、統制が図られています。また、サービス担当者会議は家族の出席も得られ、「チームでつくる」が叶っています	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録をとりミーティングにて個別の課題を話し合い計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人のデイサービスを利用できる体制としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の生け花教室など参加できるように情報収集している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診には可能な限り職員が同行し情報提供を行っている。	在宅の頃からのかかりつ医を継続する利用者が6名おり、以前は事業所との連携に課題を残していましたが、現在では情報共有も出来、協力体制を築くに至っています	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護があり、入居者の状況を報告、指示を受けている。併設の小多機の看護師に相談することができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院のMSWと連絡をとり、早期の退院に向けての相談準備を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針の説明・終末期の意向確認を契約時に行い、入居者の状態の変化に伴い随時話し合いを持っている。	「医療連携体制の重度化した場合における対応にかかる指針」を通じて契約時に家族に説明をおこない合意形成に至っています。また、「終末期のご意向確認書」は介護計画書の更新時にも再確認しています	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの整備、研修を実施している。消防署の協力にて緊急時対応訓練・AED操作訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。	津波や山崩れの想定はないものの原子力発電所が3キロ圏内にある為、市からの要請もあり「原子力防災計画」を備えています。また訪問調査当日は津波避難警報が発令されたことから、円満な対応を視認しました	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	適切な接遇・言葉遣いを心がけ、職員同士の申し送りは入居者個人の情報の扱いに配慮しながら行っている。	介護計画書のサービス内容には「自分で洗えるところは洗う」「本人の気持ちに配慮しながら失禁を確認する」といった尊重への意識が滲む文言が並んでいます	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は本人の意思をくみとり代弁できるよう、意識してコミュニケーションをとり対応に活かしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居以前の生活歴や入居後の心身の状況を把握し、規則正しい中にも本人の希望に沿った生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人と一緒に着ものを選んだり、櫛を手渡すなどして本人の身だしなみの意欲を喚起している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	専門の調理員が食事の準備をしている。好きな食べ物を職員と一緒に買い物に行ったり、できる範囲で調理に参加していただいている。	専任の調理員を配置し、食事は手作りです。利用者には洗い物をお願いしており、勇んで取り組む様子に職員も嬉しくなります。また、機会をみて回転すしに出掛ける日もあります	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分の摂取量を記録、足りない部分は好きな食べ物飲み物や寒天ゼリーなどで補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自分で歯磨きを行った後、職員が確認・磨き足りない部分の介助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員がトイレにて排泄し、体調によりポータブルトイレを使用している。紙パンツやパット使用への移行はデータに基づき慎重に行っている。	トイレでの転倒について「尿失禁で滑ったことが予測された」ことから、紙パンツ使用を家族に相談し、その対応を進めたとの例はあるものの、平均介護度2.0で、総じて壮健です	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や歩行運動などで便秘の改善を促し、必要であれば医師看護師と連携しながら服薬することによりコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上を原則としている。拒否のある方には時間帯を柔軟に行うなどして対応している。	家族には「希望があれば～」と投げかけてはいますが、家族からは「何でもいいです」との返事が返ってきていて、現在シャンプーやボディソープは共用です	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状況と日中の心身の状況により休息を勧めるなどしている。内服が必要な場合は医師と連携し調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員が既往歴・内服薬の目的を理解し、体調の変化に応じて適切に医師看護師に状態を伝えられるように勤めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の会話の中から入居者の好きなことを把握し、物品の準備や楽しめる環境づくりを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者のその日の様子により散歩やドライブに出かけたり、職員が企画して皆で外食に出かけたりしている。	片浜の公園や小堤山公園への散歩、スーパーマーケットへの買い物支援などが日常的にあるほか、元旦には波津さわ神社に初詣、春には花見と行事外出が励行されています	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物は立替金で対応している。本人がお金を持ち使うことを支援するための準備中である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望があれば施設の電話を使用することができる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員と入居者が一緒に作った掲示物で季節を感じられるようにしている。適度な広さの空間で周囲の騒音も無く落ち着ける場所となっている。	昨年の代表者変更に伴って方針が明確になり、職員の入れ替えもあってリラックスできる穏やかな空間になっていて、「人的環境の影響力」を再認識した次第です	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルなど、その日の気分で思い思いの場所で過ごせる区分けができています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、本人が混乱しない範囲で家具などを持ち込んでいる。	ラジオが趣味の人の部屋には、家族から届けられた専門雑誌がチェストの上に置かれています。最近聴かなくなったようですが、それでも在りし日の状況が残されていることに安心感を覚えました	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者は過剰な介助や用具等に頼ることなく、自分の力を活かして行動することができる。		